



事例や取り組みを踏まえて地域の交通・観光政策の在り方を考えたパネルディスカッション

将来の交通考える

産学官 講演や意見交換 弘前

ひろさき産学官連携フォーラム（榎引利貞会長）は8日、弘前市のアートホテル弘前シティで交通の将来をテーマにパネルディスカッションと基調講演会を開いた。情報通信技術を活用したMaas（サービスとしての移動）を軸に津軽圏域の交通・観光政策を考え

た。パネルディスカッションには講師を迎えた「Maas Tech Japan」代表取締役の日高洋祐氏をはじめ、弘前市、弘前大学、弘南バスの代表者がパネリストとして登壇。弘前大学地域社会研究科の北原啓司研究科長が司会を務めた。

日高氏が「定額制導

入で利便性と収益性向上」「Maasで圏外の人へ移動手段を提供しながら地域に関係人口を引き込む」などのアイデアを示した上で北原研究科長が「家用車を手放すなど価値観の転換がなければMaasが生きる世界にはならないが、新たなライフスタイルを考える枠組みになるので」と総括した。

基調講演会では日高氏が国内外の事例を紹介。講演会に先立ち、9年度総会が開かれ、同フォーラムの2019年度事業計画案などが6議案が原案通り可決された。（福田藍室）

【令和元年7月9日(火)陸奥新報5面 掲載】

この画像（記事）は、陸奥新報社提供です。無断転載はできません。